



社会が求める力とは

2月3日は節分、4日は立春と暦の上では春になろうとしています。今年は、暖冬といわれていますが、日本海側の地域に雪が降っていると聞くと地震被害で避難している方々がどうしているかと心配になります。

学校では、今年に入りインフルエンザB型の感染者が見られるようになり、欠席者も増えています。教室で咳をしている子も多いので「マスク」「手洗い」「うがい」はもちろん、十分な睡眠もご家庭で気をつけていただきたいです。



さて、経団連が毎年実施している「新卒採用に関するアンケート調査」によれば、企業が選考にあたって特に重視する点として、20年近く連続で1位になっているのは「コミュニケーション能力」だそうです。これは、コミュニケーション能力が、入社後身につけるものではなく、幼稚園・保育園から高校・大学までの就学期間で身につけるべき「個人の資質」とであると理解されているということだと思います。

子どもたちの様子を見ていると、まだまだコミュニケーション能力が進化の途中であると感じます。自分の言いたいことを相手に適切に伝えられずに泣いてしまったり、思わず手が出てしまったりする子。自己主張が強く、相手の話を聞けない、または受け入れられない子もいます。トラブルの仲裁に入ると、その時の様子を上手に伝えられる子は意外と少ないです。そのため、担任は子どもたちの話を丁寧に聞き取り、その時の気持ちや、どのようにすればよかったのかを根気強く何度も指導しています。



成長の過程にある子どもたちですから、時には失敗もしますし、意見がぶつかったり、うまくいかなかったりすることもあります。しかし、そのような様々な経験の中から身につけていく力がコミュニケーション能力です。子どもたちが社会へ出ていくときに、相手の気持ちに寄り添いながらも、自分の考えをきちんと伝えていけるような豊かな人間性の持ち主になってくれるよう、学校はこれからも努力していきます。

(教頭)